

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300861		
法人名	有限会社 みなみ風		
事業所名	グループホーム みなみ風		
所在地	静岡県富士市伝法1773番地の1		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2295300095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々に合わせた介護サービスを提供し、のんびりした時間を過ごすことで、穏やかな生活を送ることができている。職員は、常に温かい気持ちで接し、家族のような生活を送ることができるようにしている。コロナ禍で、様々な交流の機会がない中でも、近所を散歩しながら神社へお参りしたり、テラスに出て日光浴をしながらおしゃべりをして外気に触れることができるようにしている。リビングでは音楽を流し、昔懐かしい曲を聴いて口ずさんでみたり、綿のボールを使用してボール投げをしたり、入居されている方に合わせた活動をして刺激のある生活をしています。毎月第2火曜日の施設内研修を継続して行い、職員のスキルアップを常に目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度より新管理者が着任し、「第二の家」として穏やかに過ごせるよう理念をさらに掘り下げ、個人目標に落とし込んで実践し、施設内研修で振り返っています。入居時には趣味や仕事、幼少期の頃の話、配偶者との出会い、好む話・好まない話など、オリジナルシートを作成して様々な情報を家族に書き入れてもらい、信頼関係の構築に役立てるとともに、介護計画作成への細やかな配慮がうかがえます。開設より18年となり、勤続年数10年以上の職員が半数を占める安心感はあるものの、高齢化しつつある現状で、身体への負担軽減を考慮し、身近なところから課題を洗い出して業務改善を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の目標を立てる職員も1年ごとに変わり、理念を基にどのように支援していこうかをその職員目線で考えている。また、考えたところで管理者に報告し、修正があれば一緒に考えている。	理念に基づいた目標を掲げて振り返るマネジメントサイクルを確立し、職員の顔ぶれも変わりなく安心感があります。今年度は理念をさらに掘り下げて個人目標に落とし込んで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナの影響から町内のお祭りなど、事業所として参加できるものが中止となってしまい、実際の参加は無かったが、再開されれば、以前と同じように参加を考えている。できる範囲で、近所に散歩に出掛けた。	例年の活動は自粛され、地域交流も限られたものとなっています。コロナ禍で受入れ状況も厳しい中、感染対策を講じ、2名の高校生の介護実習受け入れをおこなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学生の職場体験や、高校生の介護実習の場としてコロナの影響があったが、できる範囲で受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を利用して、外出に良い場所やイベントに誘って頂いたりしている。民生委員の方や市役所の方の出席がある為、地域の情報を収集できるようにしている。お年寄りで気になっている方がいないかどうかなど。	感染者数が増加傾向にあった月を除いて通常開催しています。市、地域包括支援センター、民生委員3名の出席があり、様々な交流が途絶えている中で、地域情報が得られる貴重な意見交換の場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの影響があったため、積極的に窓口に行くことは少なかった。現状できる範囲でのやり取りだった。	運営推進会議には市と地域包括支援センター交互で出席があり、質問事項は市役所に持ち帰り、電話による丁寧な回答がもらえています。地域包括支援センターには空室状況を送って協力をお願いしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の開放は日中常に行っている。身体拘束委員を中心にミーティングでケアの反省を行っている。	身体拘束廃止未実施減算に係る取り組みは滞りなく進められ、現在、三要件に該当する人もいません。身体拘束廃止権利擁護委員会ではヒヤリハットからの検証とともに拘束のないケアを模索しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で職員に学ぶ機会を提供している。また、不適切ケアが行われないようにミーティングでヒヤリハットや事故報告から話し合いの場を設けている。報告が出しやすい職場を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など今年度は学ぶ機会を持たなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしており、不安なことがあればいつでも受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族への手紙に、意見を無記名で記入して提出できるようにしている。実際に提出されたことはない。来所時や、担当者会議の時などに要望など聞いている。	面会は玄関先で短時間とし、日頃の様子は毎月の手紙に綴って知らせています。担当者会議は介護計画更新時(6ヶ月毎)の開催として、家族に来所をお願いし、要望を聞いています。	毎月の手紙に写真が添えられるとなお良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の勤務の中や、ミーティングで意見を聞くようにしている。意見を反映できるように一緒に考えている。	ヒヤリハットの傾向から、多発する時間帯の職員配置を手厚くするために業務の手順を見直したり、利用者担当からの発信で排泄用品を替えてみたり、とミーティングで活発な意見交換がおこなわれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体力的に負担になることが多い為、勤務について常に考えている。取り組んでみたいと思うことは、できるだけ実践できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や日々のケアの中でトレーニングできるようにしている。また、職員同士で助け合える環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を通じて意見交換をしている。今年度は、コロナの影響の為、FAXや電話、zoomを利用した交流だった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、早く環境になれるように寄り添った支援をした。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えや気持ちを入所時に聞いている。また、入所後も状況が変わるごとに連絡を取り、その時の気持ちも聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、見学に来て頂き、その方に合ったサービスとなるかどうか家族と考えている。併設の施設に小規模多機能型居宅介護施設もある為、そちらの説明もすることもある。家族に選択肢ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場になって考え、無理のない生活をして頂いたり、一緒に過ごす関係として、できる範囲で隣に座って過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が良い関係に保てるように心がけながら、代弁者として双方にうまくお互いの気持ちが伝わるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の場を設けたり、併設施設から移動した方は遊びに出掛けて交流したりしている。	重度化もともなって趣味を継続できる人はほとんどないものの、リビングで足を組んで、すみからすみまでゆったり新聞を読む人や、手慣れた仕事できれいにたたみあがった洗濯物にご満悦の人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	上手に関わり合いが持てるように職員が必要時間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動されたり、亡くなられた方のご家族に、手紙を出し、様子を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向にできるだけ応えられるように職員間で検討したり、家族に相談している。	入居時には趣味や仕事、幼少期の頃の話、配偶者との出会い、好む話・好まない話など、オリジナルシートを作成して家族に書き入れてもらい、信頼関係の構築に役立て、新たな発見は介護記録に記載しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の情報を得られるように入居時に生活歴シートを家族に記入してもらい、職員が確認して情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、連絡ノートなどを通して現状把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや、日々の生活でケアについて情報や意見を出し合い、その方の現状に合う計画を立てるように努めている。	計画作成担当(介護支援専門員)が事前に介護記録や担当職員から情報収集し、ミーティング内でカンファレンスをおこなって課題を協議し、現状に即した介護計画を作成しています。	サービス内容が介護記録に反映されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアの実践等、記録や連絡ノートに記入し、特に気に掛けて欲しい箇所にはマーク(色を付ける)している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、本人の希望に沿えるよう、家族と相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩に行ったり、散歩をしながら神社にお参りしたり(初詣)コロナ禍で人との接触がないが、利用できる資源を活用できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医について確認し、納得したうえでかかりつけ医を決めている。また、適切な医療が受けられるように看護師、主治医と連携を取りながら支援している。	月2回、24時間連絡可能な協力医に全員が変更しています。訪問診療には看護師が立ち合って結果を介護記録に記し、早期対応が必要な場合は電話やメールで家族に伝え、変化がなければ手紙で報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態で気になることがあれば、看護師に伝え、適切に対応している。日常的に相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時病院関係者の方と必要な情報のやり取りを電話やFAXを利用してしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やプランの見直しや更新時に家族や本人から終末期についてできる範囲で確認している。また、本人の状態が変化してきた所で再度家族から意向を聞き、職員全体で話し合いをしてできる範囲の支援をしている。かかりつけ医とも密に連絡を取り合うようにしている。	開設以来、すでに多くの人をお見送りしてきましたが、その瞬間に立ち会う不安はあるものの、家族との話し合いを積み重ね、心のケアをしながら自然な形での看取りがあり、この2年で1名を見送っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応はすべての職員が実践力を身につけられていない。緊急時の連絡方法については知っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、避難方法を身につけられるように努めている。地域の防災訓練に機会があれば出たいが、今年度は、コロナの影響によりできなかった。	法人内事業所と合同で、夜間想定を含む年2回の法定訓練を実施し、互いの応援体制を確かめ合っています。未体験の職員がいないようにシフトを組み、備蓄も水や米、アルファ米など一週間分を用意しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いをなるべく汲み取れるようにし、否定した言葉や態度をとらないようにしている。着替えや排泄介助等、扉やカーテンを閉めプライバシーの配慮をしている。	排泄の有無のやりとりや申し送りは声の大きさに気をつけ、着替える時は部屋でおこないカーテンを閉める等、暮らしを共にする者同士でも相手を尊重する気持ちを忘れないよう留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望はじゆうに表せる環境である。おやつなど、時には選択できるように数種類の物を出すこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を言える方が少なく、様子を見ながら対応することが多いのが現状である。自分の意思を表せる方は、できる範囲で希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも綺麗に過ごせるように髪をとかしたり、衣類の着方に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物や食べたい物を聞き、用意することもある。時々、野菜の皮むきをお願いしたことがあった。苦手なメニューの時は、別メニューを用意している。	行事食やリクエストを取り入れ、調理専任職員が腕を振るっています。イチゴやミカン、夏はアイスクリームなど、デザートも楽しみのひとつとし、一口刻み、超刻み、ミキサー食といった個々の食形態に対応しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせた提供の仕方や量を考えて提供している。水分量についても情報共有できている。摂取がなかなか難しい方は、時間をずらしてアプローチしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じたケアをしている。介助によるケアでは、がーぜや口腔スポンジを利用して口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のリズムを意識してトイレ誘導している。時間を決めず、必要に応じて誘導している。	排泄パターンを把握するまでは24時間シートを活用しています。筋力維持のために立位を取る、数歩でも歩くことを意識し、「今より吸収量が少ないパッドで大丈夫かも」と、経済的負担も考慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の物を飲めるようにしたり、水分量に気を付けている。必要に応じて主治医に相談し、薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、介助を必要とする方が多く、希望に沿えないこともあるが、入った時は、時間を決めずに入ってもらっている。	午後を入浴時間として週3日を目安にし、ポディタオルでふわふわに泡立てられた石鹸で洗うことで満足感が得られています。「寒いからイヤ」と拒否がある人には浴室が十分温まったところで声をかけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日、その時の状況や本人の希望に応じて居室で休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬するときには、声を出して氏名・日付・いつの薬かを確認している。薬効・服薬方法などは、看護師から説明を受けている。薬の変更・増減についても報告がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるお手伝いをしてもらったり、気分転換に外に出て散歩をしたり、好みを聞いて好きな飲み物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、積極的に戸外には出していない。近所の散歩程度である。	散歩は近くの神社へお参りしたり、富士山を仰ぎ、桜を見ながら公園まで足を延ばしたりしています。気分転換のドライブでは、少人数で浅間神社や田子の浦公園などを巡っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族の承諾を得あてうえで一緒に買い物支援することはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をしたい、手紙を書きたいという希望が現状ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が作ってくれた装飾品やぬいぐるみ等を飾ったり、自分たちで作った繭玉を飾り季節感が伝わるように努めている。	夜勤帯に床を拭き上げ、テーブルや椅子、手すり等は都度消毒して感染対策に努めています。三月はお雛様、四月にはチューリップ等、利用者家族による折り紙の壁飾りが毎月届き、リビングで季節を知らせ、和室は洗濯物たたみに勤しむ人の姿があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は、特に決めずに自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた寝具などを持って来てもらっている。また、馴染の物(写真やぬいぐるみ)を飾っている。	備え付けのベッドがありますが、自分好みの柔らかいマットで眠れるよう持ち込みもあります。家族が持ってきたぬいぐるみを枕元に置いたり、旅行の写真、孫の結婚式の写真など、愛着あるものに囲まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事はなるべく自分で取り組んでもらう。また、通路には障害物を置かず、自由に生活が送れるように配慮している。		